

キャンパス発

～進む産学連携

島根大学医学部附属病院看護部
(出雲市塩冶町)
同大地域未来協創本部
地域医学共同研究部門 (出雲市塩冶町)

(株)リバティソリューション
(松江市西嫁島1丁目)

ストレッチャー用滴下漏水防止シート「リバティしずくガード」



「リバティしずくガード」を装着したストレッチャー

病院の入院患者をストレッチャーに寝かせたまま行うシャワー入浴で、病室に患者を戻す際にストレッチャーから水滴が落下するのを防ぐシートを、島根大医学部附属病院看護部(出雲市塩冶町)と同大地域未来協創本部・地域医学共同研究部門(同)、介護福祉機器製造・販売の(株)リバティソリューション(松江市西嫁島1丁目、古田みゆき社長)が今年3月、共同開発し、年内の発売を目指している。院内のぬれた廊下での転倒事故を未然に防止できる上、看護師の作業負担の軽減にもつながる。医療機関をはじめ、介護施設への普及が期待されている。

廊下に水滴…院内での転倒事故防止

2014年秋、同病院の医師や看護師らを対象に地域医学共同研究部門が行ったニーズ調査で、自分で入浴ができない患者をシャワー入浴させて体を拭いた後、再び病室に移動させる際に、患者を寝かせていたシャワー用ストレッチャーから水滴が落ちて廊下がぬれ、転倒事故につながる危険性があるとの指摘があった。

入浴後の患者は、体が冷えないよう迅速に病室に戻す必要があるため、約10分かかるシャワーでぬれたストレッチャーの拭き取り作業を、患者の移動前

に行う時間的余裕がないのが現状。移動させた後に廊下に落ちた水滴を拭き取る作業なども負担となっているとの意見もあった。

ニーズ調査の結果を受け、地域医学共同研究部門の中村守彦教授(61)が、同病院看護部の吉川律子看護師長(60)と協議。ストレッチャーがぬれることを防ぐ防水シートの製品化を思い付き、同部門の了承を得た。

中村教授は、出雲市内の展示会を通じて面識のあったビニ



ストレッチャーに装着した「リバティしずくガード」を見て意見を交わす(左から)足立登美夫主任と片山隆雄部長、吉川律子看護師長、中村守彦教授

ル加工のノウハウを持つリバティソリューションに相談。

15年10月、同社生産管理部の片山隆雄部長(64)が中心となり開発を、同病院看護部が吉川

看護師長を窓口にて医療現場での検証と助言、中村教授が両者間の調整や助言を担当する形で研究を開始した。

片山部長が病院に赴いて現場の意見を聞き取って社に持ち帰って協議し、シートの加工は同じ生産管理部の足立登美夫主任(34)が担当して開発を進めた。

最初の試作品は16年1月に完成。上面1枚、側面2枚の防水シートを面ファスナーでつないでストレッチャーを覆うもので、同病院看護部で実証試験をすると患者の重みで上面シート

にたるみができ、大量の水がたまる問題が起きた。片山部長らは試行錯誤を繰り返した末、上面シートの下にウレタン製クッションを敷くことでたるみをなくすことに成功した。

実証試験でも水滴はほぼ落ちず、廊下の拭き取り作業が大幅に軽減。ストレッチャーの拭き取り時間も、基本的にはぬれたシートを取り外すだけでよくなくて1分程度になり、看護師からも好評を得た。

その後も、より使い勝手の良い位置に面ファスナーを取り付けたり、撥水性、耐久性があり、肌触りも良いナイロン素材を使用したりするなど改良、工夫を重ねて今年3月、完成にこぎ着けた。

製品名を「リバティしずくガード」とし、上面シート1枚と側面シート2枚、中敷きクッション2個が1セットで価格は5万〜10万円を予定する。

販売を担うリバティソリューションによると、今年中には売り出し、初年度の販売目標は300セットとする。

片山部長は「病院のほか介護施設でも運用可能な製品で市場ニーズは幅広い」と話し、吉川看護師長は「転倒防止につながる上に看護師らの負担軽減にもなる。広く普及してほしい」と力を込めた。(堀江純一郎)